

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 復興支援 - 06

学校名・団体名	大船渡市立越喜来中学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	復興 越喜来をもっと知ってもらおう
<p>〈活動・研究の意義および活動報告〉</p> <p>1, 活動に至る経緯</p> <p>震災後、防災復興教育の活動を行ってきたが、本校は小規模校ということもあり常に予算の面で十分な活動ができない状況にあった。そのような中、他校との統合が2年後に迫り、中学生が自ら企画して自分たちが育ってきた地域の復興や活性化に役立ちたいという声が強まりました。教職員もまた、生徒の心の成長や実行力を養うためにも、ぜひ実現させたいと考えました。</p> <p>そこで、ちゅうでん教育振興助成に申請することにより、今回の企画を十分なものとして、これまで培ってきた力を発揮し、発展することができると考えました。</p> <p>2, 活動時期及び内容</p> <p>① 5月 実施に向けての企画案作成</p> <p>② 6月 協力店・支援者との打ち合わせ、越喜来を知ってもらうための資料集めや資料作成</p> <p>③ 7月 震災記録誌の作成に関わる、情報収集（夏休み） 越喜来を知ってもらうための資料集めや資料作成</p> <p>④ 8月 北上でのイベントに向けた最終準備 発表する郷土芸能（大漁唄い込み）の練習 地元販売店での商品販売体験 地元漁協での商品の加工（わかめ）</p> <p>⑤ 9月 江釣子ショッピングセンターPALでの「復興 越喜来を知ってもらおう」イベントの実施（9月4日） 震災記録誌の作成</p> <p>⑥ 10月 文化祭発表</p> <p>⑦ 12月 震災記録誌の作成に関わる、情報収集（冬休み）</p> <p>⑧ 1月 震災記録誌の完成（30年度版完成）、活動のまとめ</p>	

3. 生徒への効果

最初は地域貢献活動としての始まりだったが、その中で自分たちが何をなすべきなのか、何ができるのかを学級の中で考え、一つずつ実現に結びつける、そのような試行錯誤の中で取組が続けられました。被災した越喜来のために何ができるのか、支援して下さった全国・北上の方々にどうやって感謝の気持ちを伝えることができるのか。完成したテーマはそこから決められました。

活動の中で、企画力や行動力・防災意識はもちろん高まったと思います。しかしそれ以上に、取材の最中に涙を流しながら震災当時の話をしてくれた方や、快く取材に応じてくれた地域の方々・協力して下さった企業の方々との交流を通して、人とのつながりについて思いを強くし、地域の多くの人のためにがんばりたいという思いはより強くなったと感じました。この経験は間違いなく今後の生徒の成長の糧となると信じています。

今回は、ちゅうでん教育振興財団様から多大な支援を頂き、地元産品の販売・地域の紹介・震災の紙芝居・感謝を表す記念品の作成・郷土芸能・震災の記録誌など様々な取組をすることで、生徒は着実に大きく成長したと思います。本当にありがとうございました。



わかめの加工体験（選別）



内陸販売店での物産販売体験



わかめの加工体験（袋詰め）



浦浜地区の伝統文化マップ